

環境にやさしいといわれている特別栽培米の防除暦をインターネットなどで調べてみると、苗作り、播種期にはDrオリゼプリンス粒剤やアドマイヤー、穂ばら期にはスタークル粒剤、ダントツなど、代表的なネオニコチノイド系農薬がつかわれています。しかし、当の生産者にはその危険性が伝わっておりません。消費者の方も知らずに日常の中で、前面のイラストのような暮らしをしておりませんか。

最近多用されている農薬ネオニコチノイド系農薬は①浸透性②残効性③神経毒性があります。昆虫には効き、脊椎動物には安全だと喧伝され、有機リン剤に代わる農薬や殺虫剤としてつかわれています。脳神経科学の研究者の中に脳関門が未発達な20歳未満の子供が触れたり、吸ったりして体内に取り込まれたとき代謝が起こり脳神経を犯す危険が大であると警鐘を鳴らされる方がたくさん現れました。知的障害児の増加がその現われといわれます。栃木県教育委員会も多動症児、自閉症児、学習障害児の増加を新聞に発表しています。お茶や果物を長期間継続摂取し、あるいは大量に食べた結果、手指の震え、不整脈、短期記憶障害、頭痛、嘔吐、不眠などの食中毒症状を示す人がでてきているそうです。

「安全だ」と言われ続けていた原発と同じ構図になっております。農業に携わっている人にいうと「じゃあ、なにを使えばいいんだよ」と返ってきます。化学薬剤を使わないと作物はできないとすりこまれています。

このような状況に危機感をもち始めた生協や農協がでてきていることは心強いですが、栃木、茨城、群馬をエリアとするよつ葉生協の米部会は24年産からネオニコチノイド系農薬を使わないことを申し合いました。コウノトリ、トキ、ガンなどの生息地で生物多様性を重視している農協が使用禁止を謳おうという動きが出てきています。100万人の食をあずかると豪語するパルシステムの米産地部会でもネオニコ不使用にどう対応するかという緊急集会等が持たれています。当会の有機栽培米はこれらの農薬や化学肥料は一切使用していません。生協の方々が、「ネオニコを使った米は買わないよ」と生産者に言えば、ことは簡単です。農薬を一切使わない稲作はそれほど難しくはありません。今年の12月から民間稲作研究所が中心になって「有機稲作チャレンジプロジェクト会員」を募集しております。是非ご応募ください。

ネオニコチノイドの用途と商品名(成分名)

林業 松枯れ防除	ガーデニング 花・芝生	農業 イネ・果物・野菜
マツグリーン液剤(アセタミプリド)	ベストガード(ニテンピラム)	ダントツ(クロチアニジン)
エコワン3フロアブル(チアクロプリド)	アースガーデン(イミダクロプリド)	ベストガード(ニテンピラム)
モリエートSC(クロチアニジン)	イールダーSG(アセタミプリド)	アドマイヤー(イミダクロプリド)
ビートルコップ粒剤水懸液(チアメトキサム)	カダン殺虫肥料(アセタミプリド)	モスビラン(アセタミプリド)
エコファイターフロアブル(チアクロプリド)	モスビラン(アセタミプリド)	アルパリン(ジノテフラン)
モリエートマイクロカプセル(クロチアニジン)		プリンスフロアブル(フィプロニル)
		クルーザーFS30(チアメトキサム)
		スタークル粒剤(ジノテフラン)
		ハスラー粉剤(クロチアニジン)

家 シロアリ駆除・建材	ペット ペットのノミとり	家庭用 殺虫剤
ハチクサン(イミダクロプリド)	アドバンテージプラス(イミダクロプリド)	コバエガホイホイ(ジノテフラン)
アジェンダSC(フィプロニル)	フロントライン(フィプロニル)	アリの巣コロリ(ジノテフラン)
タケロック(クロチアニジン)		ボンフラン(ジノテフラン)
		ブラックキャップ(フィプロニル)
		ワイバアワンG(フィプロニル)

*フィプロニル:新しい系統の殺虫剤(ネオニコチノイド系ではなく、フェニルピラゾール系)。フランスなどでミツバチ大量死の原因としても注目されている。



写真は、ここに紹介されている商品の一部を集めたものです。